

ブックトーク「戦争」

ねらい	平和学習に向けて、ヒロシマや原爆に関する本に興味をもってもらう
対象学年	小学校4、5、6年生
時期	夏
所要時間	15分
紹介する本	『ぼくのこえがきこえますか』田島 征三/作 童心社 『さがしています』アーサー・ビナード/作 童心社 『ふたりのイーダ』松谷 みよ子/著 講談社 紙芝居『ちっちゃいこえ -「原爆の図」より-』アーサー・ビナード/脚本 童心社 『ひろしまのピカ』丸木 俊/文・絵 小峰書店

導入	今日は、大切なテーマでブックトークをしたいと思います。 テーマは「戦争」です。
1冊目	戦争では多くの方が亡くなります。 亡くなった人たちの声を聴いたことがありますか？ 初めに紹介するこの絵本は、亡くなった人からのメッセージです。 田島征三(たしませいぞう)の『ぼくのこえが きこえますか』です。 (読み聞かせをする)
2冊目	亡くなった人の音なき声、それは、こちらの本でも感じることができます。 『さがしています』です。 原爆資料館と私が小学生の頃は言っていましたが、正しくは平和記念資料館というのが、広島市にあります。 みなさんも知っての通り、原爆が広島に落とされた後、町に残された遺品などを展示しています。 その展示物が、この本で、原爆の語り部として紹介されています。 少しだけお見せしますね。 (2ページを開く) この時計は、原爆の落とされた時間で止まっています。 (6ページを開く) 食べるはずだったお弁当。 (28ページを開く) この写真の影が見えますか？この黒いところに、人がすわっていました。 熱線と放射線を受け、人がすわっていた所が黒い影として消えることなく ずっと残っています。 みんな、原爆が落とされる瞬間まで、生きていました。

	<p>そして、このワンピース(8ページを開く)</p> <p>このワンピースを着ていたセツコさんは、助かり、避難することができました。</p> <p>でも、その後、髪の毛がぬげ、鼻血が止まらなくなり、亡くなりました。</p> <p>この本の写真にうつる、すべての物たちには、持ち主がいて、 (30ページをひらく)</p> <p>一つ一つの物のエピソードも、最後に紹介されています。</p> <p>今も持ち主を探し、使われることを待っているのかもしれませんが。持ち主にはみんなと同じように名前があって、毎日、一生懸命生きていました。</p>
<p>3冊目</p>	<p>次に紹介する物語にも、持ち主をさがして、歩きまわるイスが登場します。</p> <p>そう、イスが勝手に一人で歩いてるんです。</p> <p>松谷みよ子の『ふたりのイーダ』です。</p> <p>お母さんの仕事の都合で、4年生の直樹は、もうすぐ3才の妹、ゆう子と、花浦にあずけられました。</p> <p>そこで散歩中、(低い声で)「イナイ、イナイ・・・」と誰かを探して歩く、不思議なイスを見かけます。</p> <p>ちょっと読みますね。</p> <p>(16ページ、終わり「イナイ、イナイ、」～17ページの「遠ざかり、ふっと消えた。」まで読む)</p> <p>直樹は、イスの後をつけてみます。そして、一軒のひっそりとした家を見つけます。</p> <p>だれも住んでいる様子はありません。</p> <p>次の日、妹のゆう子がいなくなりました。</p> <p>さんざん探し、思いついたのが、あの家です。</p> <p>ゆう子は、あの家で、まるで昔から住んでいたかのように、あの不思議なイスと遊んでいました。</p> <p>イスは、直樹に、ゆう子は「うちのこ」だと言い張ります。</p> <p>納得のいかない直樹は、なんとかイスに人違いだと認めさせようとします。</p> <p>ゆう子はどうなっているのか、イスの探し人なのか、この家に何があったのか。</p> <p>このお話に出てくる「花浦」という地名は、架空のもので、おそらく広島城近くの小さな町です。</p> <p>夏休みの広島で、直樹は、謎の解明のために、動き回ります。</p> <p>この本は、長いお話のように見えますが、文章は、漢字が少なく3年生ぐらいから読めるかなって思います。</p> <p>そして、この本のすごいところは、この本を、手にもって読んでいくうちに、本から、ひんやりとした冷気を感じるということです。</p> <p>ぜひ、みんなにも、この不思議な体験をしてもらいたいと思います。</p>

4冊目	<p>最後に、紙芝居の紹介を簡単にしたいと思います。</p> <p>アーサー・ビナードの『ちっちゃいこえ -「原爆の図」より-』です。</p> <p>『原爆の図』という、大きな、大きな絵があります。</p> <p>原爆が落とされた直後に、家族や親せきをたすけようと、広島に行った、画家の丸木さん夫婦。そこで見た、広島を絵にしたものです。</p> <p>みなさんは、こちらの『ひろしまのピカ』を知ってるかもしれませんね。こちらの作品が丸木さん夫婦の作品です。</p> <p>『原爆の図』ですが、一枚が1.8m×7.2mというのですから、(5 段書架)本棚が4つ横に並んでいる大きさです。長崎の原爆の絵も含め、全部で15枚が、一つの作品になっているそうです。すごい大きさですね。</p> <p>この『ちっちゃいこえ』は、『原爆の図』から、絵を選んで切り取り、紙芝居として作られました。少し怖い絵もあるかもしれません。</p> <p>この紙芝居は、目に見えない細胞まで壊してしまう原爆の怖さを伝えています。</p> <p>読みたい人は、先生や私に相談してください。</p>
結び	<p>以上で、今日のブックトークは終わります。</p> <p>今日、紹介した本のリストが欲しい方は、こちらにありますので、自由に持って行ってください。</p>